

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.

115

2017.4.29

平成 29 年度テーマ展示I

子どもたちの天神人形

会期:4月29日(土)~6月25日(日)





平成 29 年度テーマ展示I

子どもたちの天神人形

会期:4月29日(土)~6月25日(日)

本テーマ展では、平成28年度に大分市在住の和田富成氏から寄贈を受けた200点を超える郷土玩具コレクションの中核となる天神人形にスポットをあて展示します。天神人形は学問の神として祀られる菅原道真公をモチーフにしたもので、土人形・張子人形・練物人形と多岐にわたって作られています。その姿は、座天神から牛乗り天神、大きさも大中小あり、彩色も派手なものから素焼きに近いものなど様々です。これらの天神人形は、子どもの成長や学業成就を願い、男児の初節句祝いなどとしても贈られました。

いまなお人々の厚い信仰をあつめている多彩な天神人形を是非この機会にご覧ください。

天神とは

天神さまとして全国の天満宮に祀られている菅原道真公は、幼少から学問に勤しみ、和歌や漢詩に優れていました。政治家としても能力を発揮し右大臣に任ぜられましたが、左大臣・藤原時平の策謀により大宰権帥として大宰府へと左遷されます。その2年後には赴任先の大宰府で亡くなり、59年の生涯に幕を閉じます。

その後、京都では災害が起こり、道真を追いやった時平も亡くなり、内裏の清涼殿への落雷で人が亡くなるなど不穏な事柄が続ぎ、これらの出来事は道真公の怨霊による祟りであると人々は恐れるようになりました。

その怨霊を鎮めるため北野に社が建てられると、この地に元々農耕神として祀られていた天神(雷神)信仰と結びつき、道真公は現在も信仰される天神さまへと変化していきました。人々に災厄をもたらず御霊として恐れられた天神さまも、現在では学問をはじめ農耕・芸能・和歌・厄除け・冤罪を晴らす神として厚い信仰をあつめています。

色々な姿の天神人形

天神人形は、郷土玩具として全国各地で製作されています。その姿形は大きなものから小さなもの、座像や立像、牛や亀・船に乗っているもの、彩色されたものから素焼きに近いものまで千差万別で、人形の種類も土人形・張子人形・練物人形とバリエーションに富んでいます。一見すると同じように見える天神人形も、産地や作者によって表情に違いがみられます。また、こうした多彩な天神人形からは、天神さまにまつわる信仰や多くの逸話・伝説などを窺い知ることができます。



和田コレクション

平成28年度に当館へ寄贈された、天神人形を中心とした日本各地の郷土玩具コレクションです。京都出身の和田氏は北野天満宮の氏子で、幼少から天神さまに慣れ親しんでいました。民芸品への造詣が深く、収集家であった叔父の影響を受け、天神人形などの収集を始められました。

土人形

水を加えてよく練った粘土を手びねり、もしくは型を用いて成形し、日陰で干します。土人形のなかには乾燥後、岡山県の久米土人形のように焼成せず彩色するものもありますが、多くは窯入れして焼成します。

窯から出された土人形は、膠で溶いた胡粉を数回塗り、乾燥した後、布で磨いてつやを出します。人形の顔や手はこの胡粉の発色を生かします。次に膠で溶いた染料で衣服や装飾品などを着色し、最後に墨で目、鼻、口を描いて乾燥させ、模様を描き込んで仕上げます。



張子人形

木型に反故紙や和紙を幾重にも張り、乾燥後に人形を前後二つに割って中の木型を取り出します。人形の前後を再び張り合わせて彩色したものが張子です。

福島県の三春では独特な張子作りが行われています。まず、刷毛で撫でてついで間に空気を抜きながら和紙を糊で貼り重ねます。重ねて厚紙のようになった和紙をちぎって伸ばしながら木型に貼り付けて成形していきます。乾燥したら二つに割り、中の木型を取り出して再び接合し、彩色します。彩色は土人形での過程と同様の工程をとりまします。張子は土人形のように細かい細工はできませんが、素朴な風貌の作品が多く見られます。



練物人形

木材の鋸屑を生麩糊で練って型抜きし、乾燥させた後、胡粉や染料を用いて彩色したものが練物人形です。桐家具の産地である埼玉県鴻巣や、和歌山県の御坊などが練物人形の産地として知られています。

練物は一つの型から同じ姿の人形をいくつも作ることができ、鋸屑の他にも小麦の麩を使って製作されることもあり、安価に仕上げることができまます。木彫や土人形より軽く、張子より丈夫で、しかも細かい細工も可能であるという数々の利点がありますが、練物人形の最大の欠点は虫に食われやすく保存が難しいところにあります。



初節句

天神人形は男児の初節句のお祝いとしても贈られていました。特に中国地方では初めての男子が生まれると母親の里から土天神と呼ばれる綺麗な天神人形を贈る風習が明治時代頃まで盛んにみられました。この人形は胴体に首・手のパーツを挿し込むもので、挿し込み口には新品であることを示すために紙で封をしたまま贈られました。

寺子屋などの子ども達に身近な場所でも祀られるようになり、子ども達の学問や習字の上達に加え、健やかな成長をも祈願されるようになりました。



大分市歴史資料館開館30周年を迎えて

大分市歴史資料館は、昭和62年4月15日にオープンし、本年度4月15日で丸30年が経過いたしました。この間、実施した特別展は35回、平成4年度から始まったテーマ展示は96回を数え、郷土大分にまつわる歴史や文化をさまざまな視点から紹介してまいりました。

また平成12年度から、火起し・勾玉作り・明るさ・農機具などの体験学習の推進にも努め、現在では学校や多くの市民に親しまれて、資料館活動の大きな柱の一つとなっています。さらに平成25年からは“市民学芸員”によるボランティア活動や、館外において郷土の歴史・文化をパネル等で紹介する“まちかど歴史展示館”の活動をも進めてまいり、お陰さまを以て翌26年7月26日には100万人目の来館者を迎えることができました。

開館30周年にあたる本年度は、大友氏館跡発掘調査20周年も記念し、これまでの発掘調査と研究の成果を集大成した「威信の舞台一よみがえる大友館」の特別展を、10月27日(金)～12月4日(月)の期間に開催する予定にしております。戦国時代の大友館で行われた色々な行事や作法を記録した「當家年中作法日記」の内容を交えながら、その実像に迫る企画展です。是非、この機会に多くの方にご来館いただければと思います。

＜特別展＞ 企画展にみる大分市歴史資料館30年の歩み

- 昭和62年 第1回 市内所蔵の工芸品を中心にして 第2回 絵馬 人々の祈りと願い
- 昭和63年 第3回 化粧具の歴史 鏡を中心にし 第4回 国分寺 歴史と再現
- 平成元年 第5回 おもちゃの歴史 明治～現代 第6回 豊後キリシタン史 ヨーロッパ文化との出会い
- 平成2年 第7回 大分のやきもの そのルーツをさぐる 第8回 はるかかなる長江 中国武漢文物展
- 平成3年 第9回 古絵図にみる江戸時代の大大分 第10回 九州の土人形 その歴史と世界
- 平成4年 第11回 覇権をめざした英雄たち 大友宗麟とその時代【5周年記念】
- 平成5年 第12回 豊後の博学 後藤侯田
- 平成6年 第13回 豊かなる海 瀬戸内と豊後
- 平成7年 第14回 城のある風景 城郭物語
- 平成8年 第15回 米と日本人の暮らし 平成米騒動・その原点
- 平成9年 第16回 森羅万象に遊ぶ 江戸の科学と好奇心【10周年記念】
- 平成10年 第17回 おおいたの遺宝 指定文化財を中心に
- 平成11年 第18回 光君の物語 源氏絵の世界
- 平成12年 第19回 豊後国の眺め 古代の役所とくらし
- 平成13年 第20回 江戸紀行 名所・名物・旗本様
- 平成14年 第21回 大分と茶道 宗麟・利休の流れ【15周年記念】
- 平成15年 第22回 豊後府内 南蛮の彩り 南蛮の貿易陶磁器
- 平成16年 第23回 古の響き 時代を彩った楽器
- 平成17年 第24回 都へのおこがれ 戦国・徳豊期の大友氏と豊後
- 平成18年 第25回 ソウがいた!象が来た?
- 平成19年 第26回 時代を駆けた風雲児 松平忠直【20周年記念】
- 平成20年 第27回 馬とのつきあい おおいた馬物語
- 平成21年 第28回 山ん縄文と海ん縄文 縄文人のムラのカタチ
- 平成22年 第29回 偉人たちの風貌 おおいたの肖像
- 平成23年 第30回 大分の君 飛鳥と豊後をつないだ人
- 平成24年 第31回 大分どんどこ ごんどこ 世界図・日本図の中の大分
- 平成25年 第32回 南蛮屏風の世界 描かれた都市の賑わい
- 平成26年 第33回 変幻自在を極める 縄文と弥生のかごと木工芸
- 平成27年 第34回 日本大聞録 イヌと人の歴史
- 平成28年 第35回 ほとけの王国 大分の仏像

利用案内

- 開館時間 9時から17時 (入館は16時30分まで)
- 休館日 月 曜日 但し祝日の場合は開館
但し第1曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年 末 年 始 12月28日～1月4日

- 観覧料 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。



ふれあい歴史体験講座

- 定員 各回70名程度(先着順)
- 時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)



	実施日	内容	材料費	受付開始日
第1回	4月22日(土)	土偶作り	180円	4月3日(月)
第2回	5月20日(土)	粘土はにわ作り	230円	5月3日(水)
第3回	6月3日(土)	勾玉作り	250円	5月17日(水)
第4回	6月17日(土)	土笛作り	60円	6月3日(土)
第5回	7月1日(土)	七夕飾り作り	100円	6月17日(土)

■応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

昔のおもちゃで遊ぼう

- 内容 歴史資料館隣の広い史跡公園で、竹馬・竹とんぼ・竹弓矢・コマなどの昔のおもちゃで、思い切り遊びます。体験当日は、手押し式消防ポンプ体験を家族みんなで力を合わせて行います。
 - 日時 5月5日(金)【こどもの日】
9時30分～16時(15時受付終了)
 - 参加費 無 料 ※事前の申し込みは必要ありません。
- ★上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

＜テーマ展示＞

- No1南蛮文化とキリシタンほか No2府内の城と寺社 No3松平忠直ほか No4江戸時代の古絵図ほか
- No5江戸時代の美術 No6竊語古銭コレクション No7南蛮文化とキリシタン No8古地図にみる大分
- No9府内の殿様 大給松平氏 No10大分市の新発見遺跡 No11南蛮文化とキリシタン No12地図と写真にみる近代の大分
- No13作原八幡宮山内の遺宝展 No14おおいたの文明開化 No15なつかしのオモチャ No16源氏物語絵
- No17新収蔵品展 No18大分ゆかりの人物展 No19中根家所蔵藩国城絵巻 No20南蛮美術展
- No21館蔵古絵図展 No22城下町を撮る No23大友氏と南蛮文化 No24消えゆく道具たち
- No25文字が語る大分の歴史 館蔵古文書より No26下郡遺跡展 No27江戸の物語絵 No28府内の寺と社
- No29南蛮交流史 No30作原さんのお祭り 饗采の市と浜の市 No31地図にみる昔の大分 近代地図を中心に No32大分の先人
- No33府内藩と豊後鎮崎 No34西洋文明との出会いと交流 No35古絵図の世界 描かれた江戸時代の大分 No36市内発掘情報Ⅱ
- No37新収蔵品展Ⅱ No38大分近代の歩み No39南蛮文化 大分のエキゾチスム No40中根家伝来の品々 江戸時代の家老の暮らし
- No41変わりゆく景観 古絵図 No42源氏物語絵の魅力 No43昔のくらし展 No44大分ゆかりの古文書
- No45自然をみつめる 黄末飛騨の動植物図 No46大分西洋物語 滝廉太郎を中心に No47謙文の宝庫 横尾道勝 No48江戸の楽しみ 楽師の世界
- No49東アジアのやきもの 海のシルクロード No50昔のくらし2 No51近代大分の風景 No52松平氏と大分
- No53国際貿易港 府内沖の浜 No54歩兵47連隊 日中戦争写真展 No55野津原 佐高蘭の歴史と文化財 No56鶴崎少将
- No57物語をみる No58お金の歴史 No59絵巻を読む 描かれた大分 No60西寒多神社 所蔵文書を中心に
- No61光西寺の寺宝 No62おおいたの漁具 No63時代を写したカメラたち No64見て!感じて!古代・中世の丹生
- No65江戸の技術と科学 No66豊後大友氏と南蛮文化 No67この遺跡、この一品 No68任屋のお仕事 江戸時代の村の生活
- No69昔の道具にみる匠のわざと知恵 No70みやびの世界 源氏物語絵 No71地図と写真でたどる大分の近代史 No72大友館最新展!
- No73お神楽の世界 No74どこがちがうの? ものの形から歴史を探る No75古地図が伝える大分の歴史 No76日本歴史遺産 国指定史跡
- No77豊後南蛮交流史 No78昭和・平成の遊び 懐かしのおもちゃとヒーロー No79名所絵 絵はがきにみる昔の風景 No80館蔵陶磁器
- No81絵画にみる物語 No82学校の下に眠る遺跡 No83くらしの道具 今むかし No84歴代職員が選ぶ「資料館のお宝」
- No85古文書にみる大友の家臣たち No86江戸の愛好家 No87大分の土器48選
- No88おおいたに遊ぶ 物見遊山の旅 No89化けた!出た!道具のおぼけ No90掘った!出た!市内の遺跡
- No91郷土の宝箱 収蔵指定文化財 No92戦時下のくらしと戦後復興 戦後を生きた子どもたち No93中世豊後府内の職人たち
- No94ハレの日の酒 No95いにしへの美 館蔵古美術 No96THE府内古図 中世豊後府内のまち